

# 異変



## 生態系クライシス

### 第3部 外来生物 ④ オオハンゴンソウ

# 強い繁殖力、山中にも

6袋分を掘り取った。

除草を行った場所は、動植物の保全などを目的に国が設定した「朝日山地森林生態系保護地域」の中。懸命な防除活動で、拡大を防ぎ、生態系に大きな影響が出ないようになっているのが現状だ。

(小田信博)

西川町の大井沢温泉「湯

「毎年抜いても生えてくる

く、爆発的に増え始めると、

抜いてもすぐに生えてくる

つたり館」から、深緑に包

んだ」。朝日庄内森林生態

系保全センターの中嶋一所

という。遠く人里離れた山

まれた山あいを車で走ること

と約40分。朝日町の朝日鉦

長は作業の手を止め、こう

話した。

泉に通じる山道脇で27日、

特定外来生物「オオハンゴン

ソウ」の除草が行われた。

北米原産で多年草のオオ

ハンゴンソウは繁殖力が強

く、この日は、1時間以

上作業し、大きなポリ袋約

20面に続く

20面に続く



# 異変

## 生態系クライシス

1面から続く

オオハンゴンソウは明治初期に観賞用として国内に持ち込まれた。県内でも各地で見つかっており、朝日山地では2017年8月に朝日庄内森林生態系保全センターの職員が生育を確認した。種子が風に飛ばされるなどして侵入した可能性があるという。

種子や根から増えるのが特徴で、種子は地面に落ちた後も数年間は発芽能力がある。また、根の一部が地中に残っていると、再び新たな芽が出てくるのが厄介で、文字通り根絶させなければ、完全に取除くのは難しい。除草剤は有効だが、朝日山地では環境に配慮するため使えず、人手で防除するしかない。

# 防除に地道な人手かけ

てくるのが厄介で、文字通り根絶させなければ、完全に取除くのは難しい。除草剤は有効だが、朝日山地では環境に配慮するため使えず、人手で防除するしかない。

27日の除草作業には同センターのほかに、朝日山地では環境に配慮するため使えず、人手で防除するしかない。



除草作業に汗を流す参加者 朝日町

この時期はヨモギと見た目が似ている。葉の裏の色合いで見分ける。全体的に白色からヨモギ、光沢があればオオハンゴンソウだ。20〜30センチの株がヨモギなどに紛れて根付いており、スコップ片手に葉の裏を確認する。見つけたら周辺の土ごと掘り起こす。実際に掘ると、太い根が深く伸びていた。地中に残さないようにするのは、ひと苦労だ。

毎年同じ場所で除草しても、再び生えてくる「いたちごっこ」の状態。だが、参加



朝日山地に侵入し、生態系への影響が懸念されるオオハンゴンソウ

して4年目の鈴木正同協議会長は「以前よりはだいぶ減った。少しずつ変わってきている」と、明るい兆しを感じ取る。同センターの中嶋一所長は「外来生物の駆除は気長に続けるしかない。朝日山地に被害が及ばないように作業を続ける」と力を込めた。

生態系の保全に特效薬はない。地道な努力が生物の多様性を守ることにつながる。そのためにも、環境保護の担い手を増やし、今以上に活動の輪を広げる必要がある。

(小田信博)